

岩船郡神林村のブナ林

佐藤 信 弥

神林村のブナ林は南大平集落の大平山(561m)と川部・小岩内集落の嶽薬師(387.7m)及び朴坂山(438.2m)に僅に残っており(地図参照)、これらの現状について報告し、その重要性について理解を願いたい。

1. 大平山のブナ林(写真1~2)

大平山は神林村の東部に位置し、海拔561m、村内の最高峰である。稜線より東側は村上市の大栗田地内である。海拔200m付近からブナが出現するが、ここではミズナラが優占している。海拔350m付近には胸径60~90cmの大きなブナの大木もあり写真1~2のような樹林になっている。木の大きさに大小があるのは、かつて炭焼(昭和45年ころまで)で間伐したからだと思われる。海拔560m



● ブナ林 ● ブナの単木
図 神林村のブナ林の分布

の山頂付近には、高木層20~25m、植被率80%で胸径40cmのブナが、亜高木層5~7m、植被率60%で胸径40cmのブナが、それぞれ優占している。低木層にエゾユズリハ、ハウチワカエデ、ヤマウルシ、アクシバ、ウワミズザクラ、オクチョウジザクラ、リョウブ、ヒメアオキ、イモノキが生育し、エゾユズリハが優占している。草本層にツルアリドオシが僅かに生育している。

2. 嶽薬師のブナ林(写真3~6)

荒川の右岸、神林村の南東部に位置し、名前の通り信仰の山である。海拔150m付近、第一展望台の上



写真3 嶽薬師山頂、神社西側の変形したブナ
1989 9 24



写真1 大平山350m付近のブナ林 1989 11 12



写真2 大平山350m付近のブナ林 1989 11 12

油こぼしの下から胸径5cmほどのブナが出現する。唸杉なる杉の大木の周辺に小さなブナ林がみられる。山頂の神社周辺には、大木のブナも残存しており、かつて広くブナ林が発達していたと思われるが、伐採されてしまい、今では僅かにその形跡を留めているにすぎない。即ち、山頂神社の西側(日本海側)には胸径5~35cmのブナが混生して小さな林をなし、北側には胸径36cmのものがある。南側の境内には胸径45~73cmのブナの大木が胸径70cmの杉と混在している。このブナの中にはノキシノブが着生しているものもある。また、ブナの下にはオオカメノキ、ユキツバキ、ホツツジ、ツクバネ、チマキザサ、サビハナナカマド、ハウチワカエデ、コシノハ



写真4 嶽薬師山頂、神社西側の変形したブナ
1989 9 24

ナヒリノキ、エゾツリバナ、マルバアオダモ、コシアブラ、ユキグニミツバツツジ、コナラ、ケアブラチャン、コシノホンモンジスゲ、タガネソウ、ヌスビトハギ、アキノキリンソウ、キンミズヒキ、サルトリイバラ、オカトラノオ、ヤマハギ、イチヤクソウ、ナガハシスミレ、オヤマボクチ、オニアザミ、クルマユリ、イヌワラビ、ナライシダ、ノキシノブが生育している。ここで注目されるのは、かつてブナと混生していた針葉樹のスギ、アカマツが枯死していることである。これは針葉樹の周辺のブナを伐採したことが主な要因だと考える。7号線より一望して分かるが、かなり切り立った山であり、前方に山はなく海からの北西風を真正面に受ける。ブナ林はこの北西風をさえぎり、また土壌水分を保持し、針葉樹を保護していたが、ブナの伐採によってそのバランスがくずれたものと思われる。

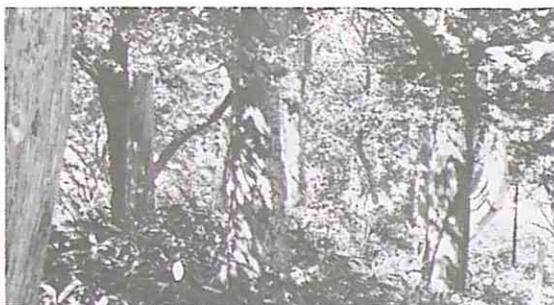


写真5 嶽薬師神社境内のブナ林
【混生する針葉樹は枯死】1989 9 24



写真6 嶽薬師山頂付近の針葉樹の枯死【神社西側・北側のブナを伐採したことにより、北西風を受けて針葉樹が枯死したと思われる】1989 9 24

3. 朴坂山のブナ林 (写真 7~9)

嶽薬師の北東、関川村との境界に朴坂山がある。神林村側からの登山道はなく、関川村朴坂集落から登る。山頂の神林村の領域に小さなブナ林がみられる。ブナの胸径は主に10-20cmで、大きいもので35cmとさまざまな大きさである。写真のようにアカマツとの混交林である。混生するアカマツは風などによる枯死が見られない。下層にはユキグニミツバツツジ、ミズナラ、ウラジロヨウラク、ハウチワカエデ、ツルシキミ、オオカメノキ、キタゴヨウ、マルバマンサク、ホツツジ、チシマザサ、タムシバ、サビハナナカマド、エゾユズリハ、ユキツバキ、アカミノイヌツゲ、ナガハシスミレ、イワウチワ、シュンラン、ジンバイソウ、シシガシラが生育している。

4. 社叢のブナ

村内の神社社叢にはブナの単木が見られる。殿岡神社に胸径105cmの大木が1本、里本神社に約80cmのもの3本、指合神社に84cmのもの1本などである。殆ど平地に近いところにあるのに、その生育は良好である。これらは植栽か、自生か不明であるが、ブナとしては、村内では巨木にあたり、貴重なものである。

5. ブナの保護と要望

新潟県内のブナ林は伐採などにより激減している現状であり、その保護が望まれている。神林村のブナ林は面積では大きくないが、大平山、嶽薬師(387.7m)、朴坂山に分布している。これら三山は国有林で、営林署が管理しており、中でも大平山は水源涵養林に指定されている。しかしその大平山のブナ林は水源の確保に不可欠であるのに、最近皆伐が進み、その様子が大きく変わってきている。村内に分布するブナ林は昔からの自然の植生-かけがえのない故郷の自然の一つであり、水源を涵養する重要な存在であるので、それを保全し、また神社などの単木で生育するブナは、村の貴重な天然記念物に指定し、両者とも後世に伝える意義は大きいと考える。村民の深い理解と村政に携わる方々の早急な対応を要望したい。

(さとうしんや
新発田農業高等学校)



写真7 朴坂山山頂神林村側のブナ林
【アカマツとの混交林】1989 10 10



写真8 朴坂山山頂神林村側のブナ林
【未成木が多い】1989 10 10



写真9 朴坂山山頂神林村側のブナ林
1989 10 10